

■開催概要

- 大会名称 : 2022 FUN & RUN! 2-Wheels/鈴鹿サンデーロードレース第4戦
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット・レーシングコース/東コース(2.243km)
- 開催日・天候 : 2022年6月4日(土)・快晴
- 主催者 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット 三重県鈴鹿市稲生町7992 <https://www.suzukacircuit.jp/>
- 開催クラス:★総参加台数/200台

ROAD STAR I	8台
ROAD STAR EXPERT I	7台
FUN & RUN Mix Big/EXPERT	28台
FUN & RUN Mix Small/EXPERT	23台
ROAD STAR WARS I	25台
NEO STANDARD<Ninja250R>	19台
NEO STANDARD<YZF-R25>	17台
NEO STANDARD<CBR250R>	10台
NEO STANDARD<VTR250>	6台
NEO STANDARD<G310R>	13台
CBR250R Dream Cupエキスパートクラス	21台
CBR250RR Dream Cup	23台



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで
ご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/>

■次回開催予定

- 大会名称 : 2022 FUN & RUN! 2-Wheels
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット/東コース(2.243km)
- 開催日 : 2022年9月10日(土)
- 開催クラス : FUN & RUN Mix Big/EXPERT, CLASSIC, ROAD STAR WARS I, ROAD STAR WARS II, ROAD STAR I, ROAD STAR EXPERT I, ROAD STAR II, ROAD STAR EXPERT II





2022 FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

4 sat. June 鈴鹿サンデーロードレース



RACE - ROAD STAR - NEO STANDARD - CBR250R/CBR250RR DREAM CUP

FUN&RUN Mix Small(EXPERT), FUN&RUN Mix Big(EXPERT), ROAD STAR I/ROAD STAR EXPERT I, ROAD STAR WARS I,
NEO STANDARD(Ninja250R/VZF-R25), NEO STANDARD(CBR250R/VTR250/G310R)CBR250R DREAM CUP [E-class]/CBR250RR DREAM CUP

開催クラス紹介

【NEO STANDARD】

現在、各社から発売されている、手頃な車両価格で最も人気の高い4ストローク250ccマシンによるエントリークラス。カワサキNinja250R、ホンダVTR250、ホンダCBR250R、YZF-R25、BMW G310Rの5車種にクラス分けされています。

スプリントレースでありながら、途中ライダー交代またはピットインが必要となります。また、チームエントリーでシリーズ戦として開催し、車両別となったカテゴリーでのチャンピオンが決定するのにも人気の理由。

ライダーを1大会2名まで登録することができ、チームとしても楽しめる、経済的なクラスとなっています。

●参加車両例

カワサキNinja250R ホンダVTR250 ホンダCBR250R ヤマハYZF-R25 BMW G310R

【ROAD STAR WARS I/II】

一般公道走行が認められている、いわゆる「ナンバー付」車両による、レース形式競技がこのROAD STAR WARSです。「I」と「II」は車両の大きさの違いであり、2ストローク251cc/4ストローク401cc以上の車両がROAD STAR WARS I、2ストローク86cc～250cc/4ストローク100cc～750ccまでの車両がROAD STAR WARS IIとなります。現在、FUN&RUNで最も人気のあるクラスの内の一つです。

●参加車両例 ホンダCBR1000RR ヤマハYZF-R6 ヤマハFZR400 スズキRGV250 y カワサキZZR1100 等

【ROAD STAR I/II】

ROAD STAR WARS同様、一般公道走行が認められるナンバー付車両による競技です。ROAD STAR WARSとは違い、こちらは全て「タイムアタック形式」の競技となります。また、ライダーのスキルにより、入門者にはCHALLENGERクラスから、上級者にはEXPERTクラスまで幅広く参加できるクラスとなっています。

●参加車両例 ホンダCBR1000RR ヤマハYZF-R1 トライアンフ デイトナ675 ビューエル XB9S スズキ TL1000S

【FUN&RUN Mix Small】

いわゆるシングルや小排気量車、すなわち排気量が2st250cc/4st 400cc以下で、ホイールサイズが16インチ以上の一般生産型市販車、単気筒および2気筒エンジンを搭載するバイク、そして400cc以下と 2ストローク250cc公道用一般車両と車両が対象。

一世を風靡したレーサーレプリカなど個性的なバイクが参加します。排気量と気筒数により、Small I、Small IIと参加車両のカテゴリーが 分かれています。

●参加車両例 ホンダ NSR250SE ヤマハ TZR250RS ヤマハ SRX600 スズキ SV400S
ホンダ CBR400RR カワサキZXR400R

【FUN&RUN Mix Big】

「Mix Big」は、国内外のV型2気筒エンジン搭載車と一般生産型の車両で4ストローク401cc以上のマシンなら何でも参加可能なクラス。国内外メーカーのツインバイク、そしてビッグネイキッドが一堂に会するレースは迫力が違います。特に「C-OPEN」クラスは、排気量が2ストローク126cc/4ストローク401cc以上でホイールサイズが16インチ以上であればどんな車両でも参加可能なクラスです。

●参加車両例

ホンダ CBR1000RR ヤマハYZF-R6 スズキ GSX-R600
ホンダ CB1300SF ヤマハXJR1300 スズキ GSF1200 カワサキ GPZ900 ドゥカティ 999S ドゥカティ 1098S
アプリリア RSV1000R ホンダ VTR1000SP1 等

【CBR250R Dream Cup エキスパートクラス／CBR250RR Dream Cup】

ホンダのグローバルモデルCBR250R(4st 単気筒エンジン)、その後よりパワフルな新型CBR250RR(4st 2気筒エンジン)も登場し、これらの4ストローク250ccマシンを使用したワンメイクレースとして人気を博しています。ワンメイクレースのため、車両の性能差が少なくライダーの技量による接近したレースが展開されます。CBR250R Dream Cupは、エキスパートクラスとビギナークラスに分かれており、今季はエキスパートクラスの鈴鹿サンデー開催全4戦中3戦がFUN&RUN!2-Wheels内にて併催します(ビギナークラスは南コースの「モトチャレ」で開催中)。

●参加車両 ホンダ CBR250RR／CBR250R

大排気量クラスならではの迫力あるバトルが披露された第2戦

「みんなで走ってバイクをもっと楽しもう!!」をコンセプトとする「FUN & RUN! 2-Wheels (通称“ファンラン”)」の2022年シーズンが開幕したのは3月12日(土)のこと。それから約3カ月後の6月4日(土)、真夏前とは思えないほど暑くなった気候の下で第2戦が開催された。

今まで鈴鹿サンデーロードレース内のカテゴリーとして行われてきた「CBR250R Dream Cupエキスパートクラス」と「CBR250RR Dream Cup」は移行期間として今シーズンはこの“ファンラン”と併催されている。このふたつのカテゴリーはHonda CBR250R、CBR250RRのワンメイクレース。それぞれ年間の合計獲得ポイント数によってチャンピオンが決まるシリーズ戦であるため、1年を通じて応援し甲斐があるのが魅力だ。

シリーズ戦と言えば、おなじみの「NEO STANDARD」のレースも注目を集めた。このカテゴリーは比較的リーズナブルな価格帯で販売されているマシンを使うため、参戦しやすいことに加え、スプリントレースでありながらレース途中でのライダー交代またはピットインが義務付けられており、セミ耐久のような楽しみ方ができるのも特徴。今回は合計65台が参加し、スタート直後からファイナルラップの最終コーナー立ち上がりまでひと時も目が離せないバトルが展開された。

また、“ファンラン”は小排気量から大排気量まで、シングル、ツイン、マルチなど、様々なバイクが参戦することも魅力。中でもナンバー付きのバイクで気軽に参戦できるタイムアタック競技の「ROAD STAR」やそれらのバイクによるレース競技の「ROAD STAR WARS」は特に人気を集めている。今回行われた「ROAD STAR I/ROAD STAR EXPERT I」および「ROAD STAR WARS I」は大排気量マシンによるカテゴリーだけに、特に迫力あるバトルが披露された。さらに、「ROAD STAR EXPERT I」と「ROAD STAR WARS I」にダブルエントリーライダーの姿もあった。

「ROAD STAR WARS I」には10台のドゥカティが参戦。その他、MVアグスタやトライアンフも含め、全25台の参戦車両のうち12台が輸入車だった。「FUN & RUN Mix Small/EXPERT」には全23台のうち、2ストロークエンジンを搭載した車両が11台参加。往年のレーサーレプリカ他、ヤマハTZ250という市販ロードレーサーも走行した。

次回は1974年までに生産された往年の名車による「CLASSIC」のレースが開催される9月10日(土)の第3戦。この日は「ROAD STAR」と「ROAD STAR WARS」全てのカテゴリーのタイムアタックとレースも開催される。今シーズンをもって終了する「CLASSIC」クラスをはじめ、一日のうちでたくさんのマシンによるバトルが披露されるであろう次回第3戦も是非楽しみにしていただきたい。



NEO STANDARD<Ninja250R/VZF-R25> 決勝スターティンググリッド

ROAD STAR I / ROAD STAR EXPERT I

まずこのカテゴリーのタイムアタックからスタート。アタック開始3周目に津村一博が57秒184をマークしてタイミングボードの頂点に立つ。津村はコースイン4周目には56秒958をマークして自己ベストを更新。57秒557をマークした内田洋一がそれに続く。内田はコースイン5周目に56秒164をマークしてタイミングボードの頂点に。津村がコースイン6周目に56秒078をマークして内田のタイムを上回る。その直後、内田が55秒894をマークして唯一55秒台に突入。内田と津村はピットにマシンを入れる。結局、内田の55秒894、津村の56秒078、川尻倫弘の57秒460のタイム順に。ROAD STAR Iの総合優勝は津村。ROAD STAR EXPERT Iの総合優勝は内田だった。



ROAD STAR I総合表彰式 (優勝:津村一博、2位:川尻倫弘、3位:吉沢竜徳)

ROAD STAR Iカテゴリー別表彰式 (C1優勝:津村一博、C2優勝:島津純一、C3優勝:松田脩平)



ROAD STAR EXPERT I総合表彰式 (優勝:内田洋一、2位:加藤信治、3位:河田誠)

ROAD STAR EXPERT Iカテゴリー別表彰式 (C1優勝:内田洋一、C2優勝:加藤信治、C3優勝:東松範暁)

ROAD STAR WARS I

2番グリッドスタートの内田洋一が大きく出遅れる。ホールショットを奪ったのはボールポジションスタートの清水義之。清水はオープニングラップから早くも後続を引き離しはじめ。それに7番グリッドスタートの寺野誠、4番グリッドスタートの橋本尚樹と続いてオープニングラップを終了。寺野、橋本の背後に接近した内田は3周目にその2台を立て続けにパスして2番手に浮上する。内田はトップを走る清水にも接近。5周目の1コーナーで清水をアウトからパスしてトップに立つ。しかし、7周目の1コーナー進入では清水がトップに。10周目の1コーナーでは内田が清水の前に。スタートで6番手まで順位を落とした内田がトップチェッカーを受けた。



ROAD STAR WARS I総合表彰式 (優勝:内田洋一、2位:清水義之、3位:寺野誠)

ROAD STAR WARS Iカテゴリー別表彰式 (C1優勝:内田洋一、C2優勝:加藤信治、C3優勝:清水義之)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。

※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。

※正式結果はウェブサイトでご確認ください。

FUN & RUN Mix Big/EXPERT

ポールポジションスタートの遠山純二が絶妙なクラッチミートに成功してホールショットをゲット。6番グリッドスタートの吉田和憲も絶妙なスタートを披露する。遠山、2番グリッドスタートの富樫崇郎、吉田のオーダーでオープニングラップを終了すると、遠山と富樫はトップ争いを展開。それに吉田と7番グリッドスタートの小林誠を加えた4台がトップ争いを繰り広げる。小林が吉田をパス。高村信二がトップグループに加わる。転倒したマシンがあったことにより、レースは赤旗中断。4周で争われた第2レースでも遠山がロケットスタートを決めることに成功すると高村、小林とテールtoノーズのバトルを展開した末にトップチェッカーを受けた。

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。

※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。

※正式結果はウェブサイトでご確認ください。



FUN & RUN Mix Big総合表彰式 (優勝:小林誠、2位:伊賀並洋平、3位:花戸昭洋)

カテゴリー別表彰式 (Big I優勝:小森輝、Big II優勝:小林誠、OPEN優勝:伊賀並洋平)



FUN & RUN Mix Big EXPERT総合表彰式 (優勝:遠山純二、2位:高村信二、3位:吉田和憲)

カテゴリー別表彰式 (Big I EXPERT優勝:山元清和、Big II EXPERT優勝:浅井昇三、OPEN EXPERT優勝:遠山純二)

FUN & RUN Mix Small／EXPERT

ポールポジションスタートの宮島伸也が良いクラッチミートを披露。そのまま宮島がホールショットを奪うと、オープニングラップから早くも後続を引き離しにかかる。その宮島に5グリッドスタートの松本真和、2番グリッドスタートの可部谷雄矢と続いてオープニングラップを終了。さらに3番グリッドスタートの大竹洋司と続く。周回ごとに後続とのタイムギャップを広げ続ける宮島の後方で松本も単独2番手に。可部谷と大竹がテールtoノーズのバトルを展開するが、5周目の1コーナー進入で大竹が可部谷をパスして3番手に浮上する。結局、後続に5秒295ものアドバンテージを築いた宮島がポールtoウィン。大竹と松本をパスした可部谷が2位となった。

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。

※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。

※正式結果はウェブサイトでご確認ください。



FUN & RUN Mix Small総合表彰式 (優勝:北岸亜斗夢、2位:島谷幸治、3位:石川勝則)
カテゴリー別表彰式 (Small I優勝:北岸亜斗夢、Small II優勝:宇佐美有年)



FUN & RUN Mix Small EXPERT総合表彰式 (優勝:宮島伸也、2位:可部谷雄矢、3位:松本真和)
EXPERTカテゴリー別表彰式 (Small I EXPERT優勝:宮島伸也、Small II EXPERT優勝:大崎真央)

NEO STANDARD<Ninja250R/YZF-R25>

ポールポジションからスタートした山下浩司／入江高伸組の入江がホールショットを奪うと、トップのままでオープニングラップを終了。それに2番グリッドからスタートした鈴木克基／志村誠組の志村、5番グリッドスタートの西良英之と続く。志村が入江をパス。しかし、すぐに入江がトップに振り返り咲く。西良の背後を3番グリッドスタートの中村和悦が走行。その中村が西良と志村を立て続けにパスして2番手に浮上する。前回大会でNinjaクラス優勝を果たしたため、最後尾34番グリッドからのスタートとなった山本晃久は5周目終了時点で10番手まで順位を回復。前回大会でYZFクラス2位入賞を果たしたため、21番グリッドからのスタートとなった鳥居典生が11周終了時点で入江、志村、中村に続く4番手まで浮上する。

14周目終了時点で入江がピットインし、山下にライダーチェンジ。中村、西良、鳥居、山本らもピットに入る。上位陣全てがピットに入った後の順位は鳥居、中村、山本、西良のオーダーに。鳥居がトップチェッカーを受けたが、ピットレーンの速度違反によって鳥居に15秒が加算されたため、中村がYZFクラスのウィナーに。総合2位の山本がNinjaクラスの2連勝を飾る結果となった。

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。

※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。

※正式結果はウェブサイトでご確認ください。



NEO STANDARD<Ninja250R>表彰式（優勝：山本晃久、2位：西良英之、3位：増田啓太）



NEO STANDARD<YZF-R25>表彰式（優勝：中村和悦、2位：鳥居典生、3位：原田悠平／有吉輝芳）

NEO STANDARD

<CBR250R/VTR250/G310R>

ポールポジションからスタートした福山京太／鈴木克正組の福山が良いクラッチミートを披露するが、2番グリッドからスタートした高橋千帆／高橋徹組の高橋(千)が前に。しかし、オープニングラップをトップで帰ってきたのは前回大会のG310Rクラスで2位入賞を果たしたため、10番グリッドからのスタートとなった佐々木龍人。それに福山、3番グリッドスタートの川崎寛治と続く。

佐々木はすぐに単独トップに。前回大会でG310Rクラス優勝を果たしたため、24番グリッドからのスタートとなった小牧寛由は3周目終了時点で佐々木、福山に続く3番手まで浮上する。福山がファステストラップをマーク。佐々木はそのタイムを上回りながら福山以降を引き離し続ける。

16周目終了時点で福山がピットイン。鈴木にライダーチェンジする。川崎もピットに入る。トップを独走する佐々木が20周目終了時点でピットイン。上位陣全てがピットに入った後のトップは佐々木のまま。それに小牧、川崎と続く。結局、そのオーダーは変わることなく、佐々木がトップチェッカーを受けると同時にG310Rクラスのウィナーに。総合4位の中川真慶／竹田透組がCBRクラスを、総合5位の樋口圭祐がVTRクラスをそれぞれ制することとなった。

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。

※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。

※正式結果はウェブサイトでご確認ください。



NEO STANDARD<CBR250R>表彰式 (優勝:中川真慶／竹田透、2位:奥田勇人、3位:福山京太／鈴木克正)



NEO STANDARD<VTR250>表彰式 (優勝:樋口圭祐、2位:上平真、3位:高橋潤)



NEO STANDARD<G310R>表彰式 (優勝:佐々木龍人、2位:小牧寛由、3位:川崎寛治)

CBR250R Dream Cupエキスパートクラス

ポールポジションスタートの山口直哉と2番グリッドスタートの竹本倫太郎が横並びの状態スタートしていく。ホールショットを奪ったのは竹本。それに山口が続く。竹本は山口以降を若干引き離し、トップでオープニングラップを終了。それに山口、3番グリッドスタートの奥中凱心と続いてオープニングラップを帰ってくる。大田雅裕は4周目の1コーナーで奥中をパスすると、5周目の1コーナー進入では竹本をもパスしてトップに浮上。次第にトップグループは大田、竹本、山口、奥中の4台での争いに。その4台はその後も周回ごとに順位を入れ替えるバトルを展開したが、山口がフィナルラップで大逆転してポールtoウィンを飾る結果となった。



CBR250R Dream Cupエキスパートクラス (優勝: 山口直哉、2位: 竹本倫太郎、3位: 奥中凱心)

CBR250RR Dream Cup

2番グリッドスタートの岩月寿樹がクラッチミートに失敗して出遅れる。ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの仲泉霞皇。ポールポジションスタートの福井宏至がS字コーナーで仲泉をパスする。2周目には福井と仲泉が3番手を走る楠留維を引き離すことに成功。仲泉が3周目に福井をパスしてトップに浮上するが、福井がすぐにトップに返り咲く。岩月が3番手集団のトップになると、ファステストラップをマークしながら単独3番手に。岩月は福井と仲泉に接近していくと、トップグループはその3台での争いとなる。仲泉、福井、岩月のオーダーでフィナルラップの突入すると、福井がトップチェッカーを受け、ポールtoウィンを飾った。



CBR250RR Dream Cup (優勝: 福井宏至、2位: 岩月寿樹、3位: 仲泉霞皇)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。

※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。

※正式結果はウェブサイトでご確認ください。